
山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター

センターだより 第142号 (通巻第209号)

2016年2月29日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

■ 第4回連携・教育研究会（山梨県総合教育センター研究発表大会）のご報告

山梨県総合教育センター研究発表大会が、2月23日（火）に山梨県総合教育センターにて開催されました。この大会は、第4回連携・教育研究会を兼ねており、毎年県内外の小・中・高・特別支援の各学校の先生方はもちろん、大勢の教育関係者が参加し、山梨県総合教育センターの一年間の研究の成果について学ぶよい機会になっています。

大学側からは、来賓として、中村和彦教育人間科学部長、松森靖夫附属教育実践総合センター長、アドバイザーとして、教育支援科学講座の鳥海順子教授、教育実践創成講座の服部一秀教授、言語文化教育講座の田中武夫教授、芸術文化教育講座の大内邦靖准教授、附属教育実践総合センターの中澤勇三客員教授、窪島紀人客員教授、小林大教授、藤田博康教授、成田雅博准教授、一瀬孝仁准教授の12名が参加しました。

全体研究テーマ「学校教育を支援する実践的研究～確かな学力の育成を目指して～」を受けて、午前には基調提案，特別講演，午後は各研究グループの提案・協議が分科会形式で進められました。

特別講演会では、「児童生徒の学力を高める授業づくり・学級づくり～活用型学力，学級力，家庭学習力の向上を図るには～」をテーマに、早稲田大学大学院教職研究科教授の田中博之先生による講演が行われました。今、学校現場が抱える喫緊の課題の一つである学力向上への取り組みを柱に、各学校における児童生徒の実態を踏まえた具体的取り組みの方策や大切にしたい授業づくり・学級づくりのノウハウやポイント等、多岐にわたり多くの示唆に富む話を聞くことができました。

午後の主事研究の分科会研究発表は、「教育課題研究」「相談支援研究」「情報教育研究」「教育課程実施状況調査研究」「一般留学生研究」の各グループ研究に分かれ、それぞれの分科会で熱心な研究発表が行われました。例えば、教育課題研究グループの理数教育研究グループでは、作成した指導モデルの検証授業についての研究成果が提案され、今後の理数教育の充実にむけた方向性が提案されました。その他のグループの発表においても現在の教育課題に焦点を当てた提案がされ、一年間の研究の成果を感じる有意義な時間になりました。

■ 山梨大学教師塾事業「初任者元気アップ講座」を開催しました

2月8日（火）に教員採用試験に晴れて合格した学生、将来教員を希望している学生を対象に山梨大学教師塾事業「初任者元気アップ講座」を開催しました。当日は卒論・修論発表等に向けて忙しい中、志高い大勢の学生の参加があり、有意義な時間を過ごすことができました。

これまでに教育実習や学生ボランティアの経験しかない学生も4月からは一人前の教師として学級を担任し、実際に子どもたちの前に立ち、学級経営をはじめ授業実践を積み上げていかなければなりません。初任者とは言え、現場ではベテランの教師と同じことを求められます。

今できること、まずは「現場を少しでも知ること」です。この日は、講師として、現場の3名の

先生方をお迎えし、学校現場や教師としてのあんなこと、こんなことについて気楽に気軽に話を聞き討議できる時間を過ごすことができました。



砂長完郎先生（小学校主幹教諭）、玄間修先生（中学校主幹教諭）のお二人の先生には、勤務されている学校の様子やご自身の経験をもとに、初任者の学校での動き、保護者との関係づくり、授業づくりなど多岐にわたりお話していただきました。また、岡田正志先生（小学校校長）には、赴任校が決まってからの最初の一週間の学校の動きや初任者としての心構えについてお話していただきました。

初任者には「若さ」という武器があること、困ったことや悩みがあったら迷わず相談すること、子どもや先輩の先生方、また保護者から学ぶという謙虚な姿勢をもつことが3人の先生方に共通していた内容だったと思います。心配や不安を少し解消することができた時間になったと思います。

◆参加者アンケートより（抜粋）

- ・4月から現場に入った時、どう動けばよいのかイメージをもつことができました。不安より期待の方が膨らみました。
- ・建前ではなく本音が聞けたような気がしてとてもためになりました。
- ・教師としてだけでなく、社会人としてどうあるべきかを教えていただけたと思います。講座名の通り「元気アップ」して現場に臨む準備をしていきたいと思います。
- ・自分の持ち味を十二分に発揮し、子どもたちのために何ができるかを常に考えられる教師になりたいと感じました。このような機会があれば、是非また参加したいと思いました。
- ・初任者としての心構えのようなものを聞く機会がないので、とてもありがたく感じました。
- ・1年目でもベテランでも学級経営は同じレベルを求められるという言葉やうまくいかないことを子どものせいにはしないという言葉が心に残りました。
- ・大切だと思っていた心構えなど、忘れていたことを改めて思い出す機会になりました。教育現場に即したお話で、また一つ不安を解消することができました。
- ・現場の先生方の言葉は重みがあると感じました。

■「地域連携子どもと親と教師のための教育相談」・教育相談室に関するお知らせ

相談スタッフについて新規に登録された方も含め、来年度に向けてHPの相談スタッフ一覧を更新します。新規登録の追加や相談日時の変更等ありましたら、3月15日頃までに教育実践総合センター事務室まで電話、メールなどでお申し出ください。

■教育相談室に関するお知らせ

「教育相談室（L-428）」及び相談室の備品をどうぞご利用ください

「教育相談室」のご利用に際しましては、事前に附属教育実践総合センター事務室（J号館4F）にて空き状況を確認の上、ご予約ください。火曜日は附属教育実践総合センターが優先的に使用させていただきます。鍵はJ号館1階支援課にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出しております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

これまでのセンターだよりの一部は、<http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見るすることができます。